

松原市指定文化財調書

有形文化財 美術工芸品 歴史資料 歴第1号

名称・員数	: 布忍神社 <small>ぬのせじんじゃ</small> 布忍八景扁額 <small>ぬのせはっけいへんがく</small> 6面
所有者	: 宗教法人 布忍神社
所在地	: 松原市北新町2丁目4番11号
年代	: 江戸時代中期 宝永2年(1705)
材質・法量等	: ケヤキ材
	49.1×190.0cm 厚2.2cm 46.9×191.2cm 厚2.8cm
	48.0×184.1cm 厚2.5cm 49.8×197.5cm 厚2.5cm
	51.5×205.3cm 厚2.9cm 51.5×205.3cm 厚2.4cm

〔説明〕

布忍八景扁額は、布忍地域周辺の風景を絵と漢詩・狂歌・俳句であらわしたもので、中国・洞庭湖（湖南省）の瀟水、湘水という2つの河川が流れ出るあたりの四季・四時に応じた八つの風景を選び取った「瀟湘八景」になぞらえたものである。松原市近郊では、「狭山八景」（大阪狭山市）、「城山八景」（柏原市）などが同様のものとして知られている。本扁額は、上段に風景を彩色で描き、下段に漢詩・狂歌・俳句を寄せる形式のもので、市民には、「布忍八景絵馬」の名称で周知されている。

本扁額は、1面に対して2景が収められており、「宮裏白櫻 孤村夕照」、「野塘春日 平田秋月」、「南山残雪 西海晚望」、「竹林黄雀 籠池白鷗」の4面で八景をなしている。本扁額は、向井村庄屋の寺田家に所有されていた「宮裏白櫻 孤村夕照」、「野塘春日 平田秋月」、「南山残雪 西海晚望」、「竹林黄雀 籠池白鷗」の4面1組揃いのほか、布忍神社に奉納されていた「宮裏白櫻 孤村夕照」、「野塘春日 平田秋月」の2面一群の計6面が残されているが、寺田家に所有されていたものは、数十年前に布忍神社に寄進され、現在6面すべてが当神社の所有品となっている。

寺田家旧蔵の「宮裏白櫻 孤村夕照」、「野塘春日 平田秋月」と布忍神社に奉納されていた同名扁額は、それぞれ全体の構成、記された漢詩・狂歌・俳句、描かれている絵の内容などまったく同じもので、どちらかが複製模写されたものであると思われる。従って本来は、布忍神社においても寺田家と同じく4面1組として揃っていたものと考えられ、残る2面は失われたものと推測できる。

本扁額の材質はすべてケヤキ材で、それぞれの上端部を幅約7cmの同種の別材で継ぎ合わせた寺田家旧蔵の「竹林黄雀 籠池白鷗」と布忍神社に奉納されていた「宮裏白櫻 孤村夕照」以外は、1枚板製である。

八景は、国学者契沖ら大坂の文化人からの寄稿がある、「宮裏白櫻 孤村夕照」から始まり、制作年が記された「竹林黄雀 籠池白鷗」で終わると推測し、以下その順に従い内容を紹介する。

「宮裏白櫻 孤村夕照」

寺田家旧蔵のものと布忍神社に奉納されていたものがある。大きさは、寺田家旧蔵のもので、49.1×190.0cm(2.2cm厚)、布忍神社に奉納されていたもので、51.5×205.3cm(2.9cm厚)である。向かって右側に「宮裏白櫻」、左側に「孤村夕照」を描く。寺田家旧蔵のものについては、その右端と左端の下角付近に損傷が認められ、右端の方は、記された文字の一部にも損傷が及んでいる。布忍神社に奉納されていたものについては、ほぼ目立った損傷は認められない。彩色の遺存状況は、両者ともほぼ良好と言えるが、布忍神社に奉納されていたものの方がより良好な状態にある。

「宮裏白櫻」は、桜と松に囲まれた神社の春の風景である。描かれた神社の様相は、左手の方の鳥居から参道が神社に向かって続いており、参道の両側には民家が建ち並んでいる。参道の到達点には、堀状の溝、それを渡る橋、山門、「牛□(神カ)」と記した扁額を掲げた朱塗りの鳥居があつて境内に至っている。境内には、一对の石灯籠がありその奥に拝殿と本殿が描かれている。また上空や松の樹上に鳥様の鳥の描写も見られる。この絵に描かれた神社の様相からみて布忍神社を南方から見た風景を描いたものと考えられる。

「孤村夕照」は、樹木に囲まれた民家集落とそこへ続く道、その道に行く旅人たちを遠くのなだらかな山並みに沈む夕日とともに描いた風景である。描かれた道は、往来する旅人の様子や駄馬を連れる者がいることなどから主要な街道を描いたものと思われる。集落のモデルがどこのものであるかは知りえないが、布忍地域の風景であるならば、街道は、下高野街道を描写したものであろうか。また夕日を背景に描くことから東方から西方を望む風景と考えられるので、遠くに見える山並みは淡路島を表現したものと思われる。

なお布忍神社に奉納されていたものの裏面には、以下の墨書が3ヶ所認められる。ただしいずれも本扁額との関係については不明である。

「岩二屋」

「日和見」

「二月廿八日□(改カ) / 三拾貫二百□(匆カ)」

「野塘春日 平田秋月」

寺田家旧蔵のものと布忍神社に奉納されていたものがある。大きさは、寺田家旧蔵のもので、46.9×191.2cm(2.8cm厚)、布忍神社に奉納されていたもので、51.5×205.3cm(2.4cm厚)である。向かって右側に「野塘春日」、左側に「平田秋月」を描く。両者ともほぼ目立った損傷は認められない。彩色の遺存状況も両者ともほぼ良好と言えるが、布忍神社に奉納されていたものの方がより良好な状態にある。

「野塘春日」は、春の日に川岸で牛が放たれ、土堤では、農民が作業に勤んでいる姿を描いたもので、土堤上には松や柳らしき樹木とともに旅人が往来する姿も描かれている。布忍地域では、西除川の堤防上は下高野街道となっているので、その辺りの風景を描写したものと考えられる。

「平田秋月」は、秋の農村の風景で、松などの樹木に囲まれた集落と稲叢が

積まれた様子、稲刈り後の田圃で作業する人々が、一列になって飛ぶ雁の群れと満月を背景に描かれている。日没後も農作業に勤しむ農民の姿を風景としたものである。

なお寺田家旧蔵の本扁額の裏面には、墨書で、「木／□□尺六／七拾六□□／長七尺」と記されている。本扁額製作時のものではなく、後世に書き加えられたものである可能性もある。

「南山残雪 西海晩望」

大きさは、48.0×184.1cm（2.5cm厚）である。向かって右側に「南山残雪」、左側に「西海晩望」を描く。右端部を切断されていて、右端に記された標題墨字の「南山残雪」の縦半分から右側が欠損している。

「南山残雪」は、冠雪した山の景色を描いたもので、手前には松と柳らしき樹木、川らしき水域とそれに架かる木橋が描かれていて、橋を渡る人物も描かれている。山の形状とその並びから察すると、描かれた大きな山形は、右から、金剛山、葛城山、二上山、寺山と思われ、布忍地域から南東方向を望む風景に該当する。山並みの手前に描かれた水域と樹木の描写は、おそらく西除川とその堤防の表現と思われる。またそこに架かる橋は、長尾街道に架かる橋である可能性が考えられる。

「西海晩望」は、海を描いた風景で、青く彩色された海面には幾隻かの帆立舟が航行している。海域の手前には、松林を描いて海浜をあらわし、また海域の背景にはなだらかな山並みを描いている。標題からして布忍地域から西方の大阪湾を望む風景と思われる。背景の山並みは淡路島を描写したものであろう。

「竹林黄雀 籠池白鷗」

大きさは、49.8×197.5cm（2.5cm厚）である。向かって右側に「竹林黄雀」、左側に「籠池白鷗」を描く。目立った損傷等は認められないが、彩色の遺存状況は6面中で最も悪く、「竹林黄雀」は特にわかりづらいものとなっている。

「竹林黄雀」は、寺院を囲む竹林で子雀が戯れる姿を描写した風景である。寺院には、大きな堂宇と山門、塔などが描かれており、規模の大きな寺院を表現している。また寺院の前には旅人が往来する街道らしき道も描かれている。ここに描かれた寺院は、布忍地域における大寺院であるならば、おそらく平安時代に建立され明治時代に廃寺となった永興寺であろう。そして前面の街道は、長尾街道であると思われる。永興寺は、平安時代以降大きな発展を遂げたものの現在にその遺構は残らず、どのような寺院であったかは未だ知り得ていないので、本扁額にその姿が描写されていることは大変貴重な資料と言える。

「籠池白鷗」は、松に囲まれた池で羽を休める鷗などの鳥を描いたものである。標題からして、この池は、西除川を挟んで布忍神社の対岸に位置する籠池である。

なお本扁額の左端には、「寶永貳酉年十一月十三日」と日付が記され、奉納された時期が、宝永2年（1705）であったことが判明する。

またこの裏面には、墨書で、願主として28名の氏名と絵師「池 真□」の名が記されている(参考)。絵師「池 真□」については不明であるが、願主については、在所、実名、雅号や俳号が記されており、在所別の内訳で見ると、向井9名、清水6名、更池3名、高木2名、東代1名、堀1名、松原1名のほか、現堺市の南花田3名、小坂1名、北村1名となっている(多い順)。

このうち「一志」と「安求」は、本扁額に先立つ『河内鑑名所記』(「河内名所鑑」延宝7年<1679>)に、その俳句が収録されている。また向井村の寺内安林が記した『熊野山案内記』には、葛井寺に寄進した「短冊絵馬」への寄稿句の写しが掲載されているが、その中に安林本人のほか、「正村」(浅井正村)と「安求」の名前も見ることができる。本扁額が所蔵されていた寺田家は、寺内家の姻戚とされ、本扁額が寺内安林を通じて伝来した可能性がある。

ここに記された願主を元禄・宝永年間(1688~1711)の「人別改帳」や「検地帳」などの史料と比較すると、更池村の「喜右衛門 定次」が庄屋、同じく更池村の「徳左衛門 貞則」が年寄、松原村の「四郎右衛門 月香」が庄屋、向井村の「好右衛門 安林 自休軒」は元庄屋であることがわかる。また向井村の「武右衛門 安求」は、更池村で15石の土地をもつ富農であり、清水村の「見庵 茂哉」は医師、高木村の「東坊 云推」と更池村の「多聞院 秀政」はともに僧侶であることがわかる。

以上のことから、江戸時代中期の宝永2年(1705)当時には、布忍地域において各村の庄屋や年寄といった富農や僧侶たちを中核とする文芸サークルの様なものが存在していて、彼らが布忍八景扁額を2組製作したのち1組を布忍神社に奉納したものと理解することができる。彼らは雅号や俳号をもって狂歌や俳句を楽しんだのである。

また「宮裏白櫻 孤村夕照」の冒頭には、当時の高名な歌学者である下河辺長流や国学者の契沖のほか、俳諧師・小西来山の名や「その女」といった人物名を見ることができるほか「南山残雪 西海晚望」には「一禮」の名も見られる。元禄期(1688~1704)の三都での俳諧師番付である『花見車』には、大坂の俳諧師として「来山」、「一礼」、「園女(そのめ)」が掲げられているが、本扁額には、この3名ともが名を見せているのである。下河辺長流や契沖は、本扁額が奉納された宝永2年(1705)には既に没していたが、願主たちの中には、彼らと懇意にし、あるいは彼らから親しく指導を受けた者がいたのであろう。その縁で本扁額に彼らの作品を掲載したものと推測される。言い換えると近世前期大坂の文化的高揚に連なる作品ということができるのである。

布忍八景扁額は、これまで知り得なかった農村文芸の一端を明らかにし、松原市における江戸時代の農村文芸の水準の高さを如実に示すものとしてその価値は大変大きい。また歴史的にも江戸時代の松原市域の様相を現代に伝えるものとして大変貴重な資料であり、今後、松原市が次世代に伝えていくべき重要な文化財である。

(添付資料)

「宮裏白櫻 孤村夕照」

布忍八景

宮裏白櫻

一志

萬木林中宮宇櫻

春来日々轉レ黃鶯一

美華是可レ神遺愛一

不レ減一枝レ益向レ榮

和 聽雲軒

数仞宮牆遶(繞) 二白櫻一

新年句調詠二黃鶯一

閻浮誰敢忘二神澤一

風景還從二祇花一榮

長流

さく花も神のミたまの冬めきて

いかきの櫻雪をミスなり

契仲(沖)

植置てたむける神のミや櫻

ひとの心もミれはのとけし

正村

美し法師すかた白さくら

来山

櫻啖(咲カ) て此宮はやふ夜か明る

鳥居先の家く年毎の

くれの餅つかぬを吉例とす

云推

宮櫻餅花かあうこんなもの

秀政

さりなから鳥ハ黒し宮櫻

自休軒

ミヤの名は白けに

廻文

けらし花のやミ

孤村夕照

林下孤邨日已傾

雨収煙絶趨(趨) 二前程一

行人執レ策馬蹄疾

永興疎鐘報二晚暗一

和

半竿斜照又西傾

一路紫(柴丸) 門鎖二水程一

鴉背閃逢二煙樹暗一

龐眉撐玉茅簷暗

鶏はまたきとくらに人はてて

夕日に独りさとにのこれる

夕日さす窓によりぬる人やたれ

さひしさとハんミゆる一らむ

その女

夕陽や手もとに花の春きぬ

見龍

かけろふの入日や満て茜認

茂哉

無事くの家へ寝に来る燕哉

月香

足弱や夕日を花におきミやけ

永いかけのひし

廻文

にし日の下界かな

「野塘春日 平田秋月」

野塘春日

埜(野)塘不_レ遠近_二吾廬_一

日々孤筇行足_レ娛

風入_二垂楊_一舞_二狂

絮_一雨過昏水散

跳_レ珠

和

春日遅々転_二玉壺_一

野塘青艸供_二歡娛_一

新晴花藉蜀江錦

太化水回合_二浦珠_一

平田秋月

平田秋熟稻梁肥天朗

氣清陰雨稀野老不_レ

知晴景好黄昏獨背_一

月明_一歸

和

老雅躬耕_二土地_一肥喜

禾雨足旱災稀鳥

啼華樹無人處牛

背牧童載_レ月歸

沢水も人目つつみと霞む野に
こなきつむこを忍ひて見し

蛙鳴野沢のつゝみ行くらし

菴にしかん昏の若艸

安林

埜堤や哥雀のとゞく虹の反

貞則

新堤あ坂ハはけて霞けり

雲散

蛇の円座をほとく焼野哉

安水

野塘や三月麦の日和風

勝久

野堤や松に顔うつ紙鳶

見つゝけよ春日に

廻文

干るは除堤

稲菴かり田の原の跡の月
ありしはかりもしく出かな

武蔵野もかくこそハミめ末遠き

田面の露にやとる月哉

悠川

名月に畳舗けり米のはな

正之

名の月や天智天皇御座所

一章

掬するや波底の月の田一杯

安知

布忍野の綿の盛やけふの月

未白

稻茎や月の分し水の淡

月をつね案山子

廻文

や鹿か寝つ起つ

「南山残雪 西海晚望」

南山残雪

春馴南山光景

美雲淡風暖帯_二

晴暉_一溪邊斑駁

雪残處白鷺為_レ

群遂未_レ飛

和

東風凜々雪扉々

銀闕瓊樓催不_レ暉

山主却嫌_二春色晚_一

敢穿_二庭樹_一作_二花飛_一

北風の向ふ山とや嶺の雪

きゆへきかたの消かてにする

朝もよひき比の遠山霞めとも

やとのものなる峯の白雪

一禮

あの高根獵の雪の二月や

長政

雪消て藁か出つ武人形

定次

淡雪や片袖あけて烏帽子形

梅春

春の雪片肌脱た南山

榮張

雪はけて御礼の牛すゝミ黒

西海晚望

晚望_二滄浪_一独_寄欄西

南萬里水漫々帰

帆一片煙波上只

作洞庭遠浦看

和

簾捲斜陽人_寄欄

漸荏淡路白漫々

哥端幾點鴈聲

遠只作星河咫尺

看

夕しほに難波を出て松浦ふね

そなたに行や帰るなるらん

和田の源鏡と見ゆる夕なきに

いとわぬふりや淡路嶋山

文十

鯨網を引しぼりたる入日哉

一匡

たかとより下に帆船の幾千艘

休宗

白雨や中に日のふる西の海

言晶

夏はかり船頭様や百の海

篤信

落日や波にまはゆき床□□

きゆるこの間や

廻文

南山のこる雪

みなつきをくたくや

廻文

くたく沖つなみ

「竹林黄雀 箆池白鷗」

竹林黄雀

前埜竹林亭積翠

許多黄雀日相群

遊兒動作彈丸兔

為_レ報_二暮長_一近_二此君_一

和

數畝琅玕千貫

百千黄雀足_レ成_レ群

王猷死後無_二人賞_一

独有談_レ風伴_二此君_一

箆池白鷗

□(青_丸)蘇平鋪置黄雀

翠□□動起_二清風_一

白鷗口夜許多衆

自是清浩一鳥籠

和

碧鏡蘸天分霽月

霜衣舞露散風_二香風_一

淡萍清□(涉_丸)雨三尺

覆育生魚一畢籠

今更に何かおひたつ省子も
よのうきふしのしげき林に

朝夕に来鳴雀も声しけし
竹の林にます陰やなき

安求

花にくれて竹に実のなる雀哉

忠重

子雀や朝日呼出す竹林の奥

好氏

鶯もかるや雀の小便たこ

高允

雀追ふ竹に声あり苗の番

和言

梅に寝す竹に生れぬ雀也

若のるハ淡竹や

廻文

朽葉春のしも

池の名をもらさしと結ふより
なくかもめやよそに離れぬ

かの見ゆる他の汀を踏したき
あさる鷗のとゝまるもおし

伴自

初雪や木とも石とも不分明

安可

箆池や脱捨足袋の一番

為国

ちよほくと鷗寒うて水の雪

辨弥

鴨鷗羽おとくらへよ松の風

安昌

水面かゝん箕の手に下る鷗哉

目も鴨とにぬにや

廻文

似ぬともかもめ

宝永式酉年十一月十三日

「竹林黃雀・籠池白鷗」(裏面)

願主

高木	東坊	云推
同	九郎兵衛	高之
更池	多門院	秀政
同	喜右衛門	定次
同	徳左衛門	貞則
東代	忠左衛門	忠重
清水	見庵	茂哉
同	只右衛門	未白
同	定右衛門	□□
同	新兵衛	霜救
同	傳右衛門	休 <small>因</small>
堀村	□左衛門	□龍
向井	長右衛門	長政
同	喜庵	見龍
同	好右衛門	安林
同	武右衛門	安求
同	新右衛門	好氏
同	弥十郎	安可
同	半十郎	安水
同	宥弥	安□
同	三郎 <small>因</small>	□春
同	六兵衛	安知
松原	四郎右衛門	月香
南花田	兵左衛門	一邑
同	長左衛門	圖言
同	千代	一番
小坂	林左衛門	勝久
北村	重兵衛	正之

敬白

願主頭取

畫師

池真

(参考) 布忍八景扁額の寄稿作品の作者と願主

※太字は対比確定、細字は対比推定

標 題	作者名	願 主 名	熊野山案内記	河内鑑名所記	備 考
宮裏白櫻	一 志	南花田 兵左衛門 一 邑		○	
	聴雲軒				
	長 流				下河辺長流 (歌学者)
	契 仲				契沖 (国学者)
	正 村		○		浅井正村 (願主頭取か)
	来 山				小西来山 (俳諧師)
	云 推	高 木 東 坊 云 推			
	秀 政	更 池 多 門 院 秀 政			
自休軒	向 井 好 右 衛 門 安 林	○		寺内安林	
孤村夕照	その女				園女 (俳諧師)
	見 龍	向 井 喜 庵 見 龍			
	茂 哉	清 水 見 庵 茂 哉			
月 香	松 原 四 郎 右 衛 門 月 香				
野塘春日	安 林	向 井 好 右 衛 門 安 林	○		寺内安林
	貞 則	更 池 徳 左 衛 門 貞 則			
	雲 散	清 水 新 兵 衛 霜 救			
	安 水	向 井 半 十 郎 安 水			
勝 久	小 坂 林 左 衛 門 勝 久				
平田秋月	悠 川				
	正 之	北 村 重 兵 衛 正 之			
	一 章				
	安 知	向 井 六 兵 衛 安 知			
未 白	清 水 只 右 衛 門 未 白				
南山残雪	一 禮				一礼 (俳諧師)
	長 政	堀 村 長 右 衛 門 長 政			
	定 次	更 池 喜 右 衛 門 定 次			
	梅 春	向 井 三 郎 □ □ □ 春			
榮 張	清 水 □ 左 衛 門 □ 龍				
西海晚望	文 十				
	一 匡	南 花 田 千 代 一 番			
	休 宗	清 水 傳 右 衛 門 休 □			
	言 晶				
篤 信					
竹林黄雀	安 求	向 井 武 右 衛 門 安 求	○	○	
	忠 重	東 代 忠 左 衛 門 忠 重			
	好 氏	向 井 新 右 衛 門 好 氏			
	高 允	高 木 九 郎 兵 衛 高 之			
	和 言	南 花 田 長 左 衛 門 □ 言			
竈池白鷗	伴 自				
	安 可	向 井 弥 十 郎 安 可			
	為 国	清 水 定 右 衛 門 □ □			
	辨 弥				
安 昌	向 井 宥 弥 安 □				

布忍神社

布忍八景扁額

「宮裏白櫻」

「孤村夕照」

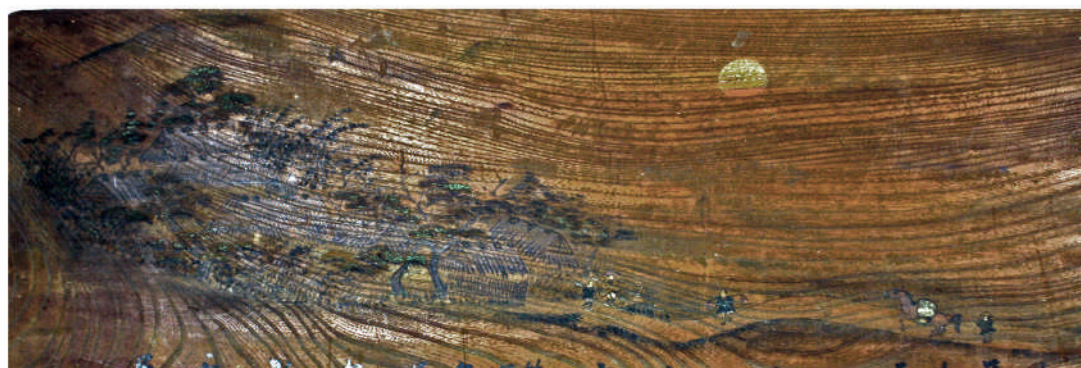
（寺田家旧蔵）



（細部）



「宮裏白櫻」



「孤村夕照」

布忍神社

布忍八景扁額

「野塘春日」

平田秋月

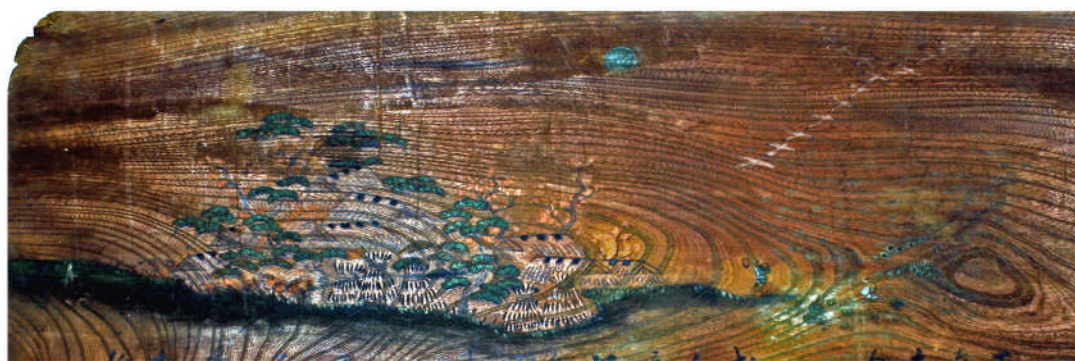
（寺田家旧蔵）



（細部）



「野塘春日」



「平田秋月」



裏面墨書

布忍神社

布忍八景扁額



「南山残雪」

「西海晚望」

(寺田家旧蔵)

(細部)



「南山残雪」



「西海晚望」

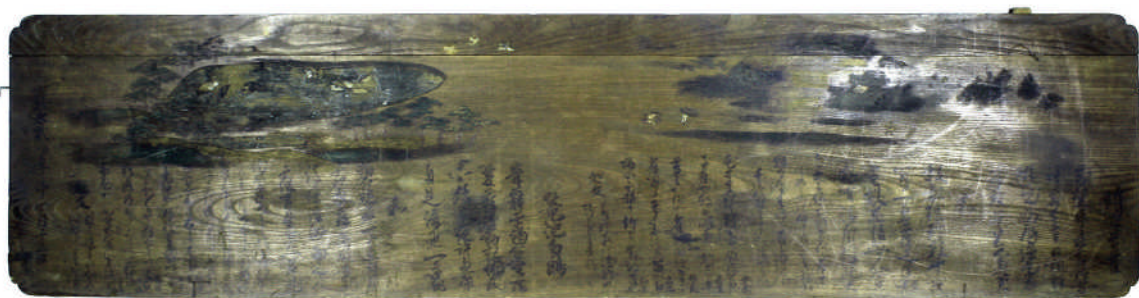
布忍神社

布忍八景扁額

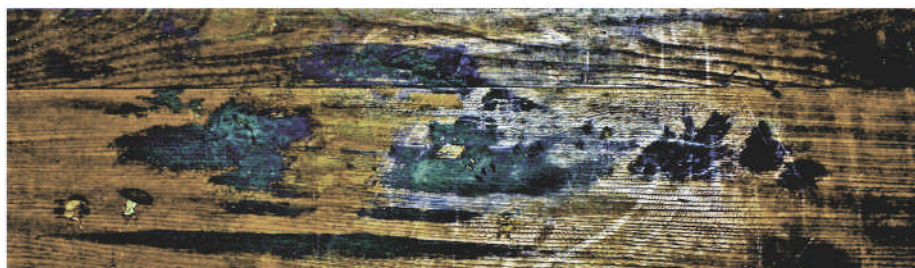
「竹林黄雀」

「籠池白鷗」

(寺田家旧蔵)



(細部)



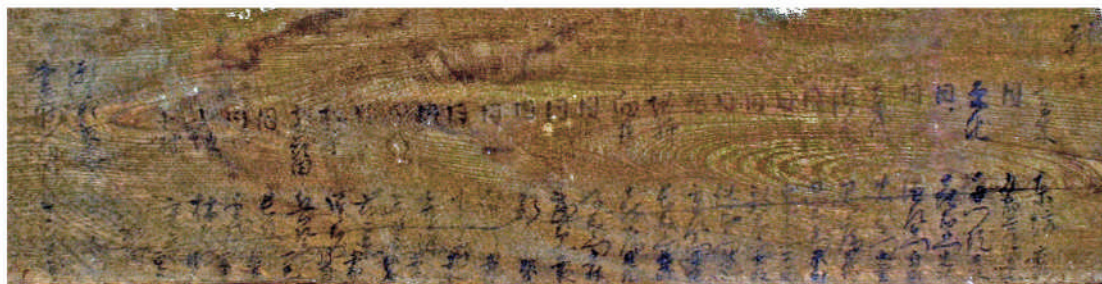
「竹林黄雀」



「籠池白鷗」



裏面



裏面墨書

布忍神社

布忍八景扁額

「宮裏白櫻」

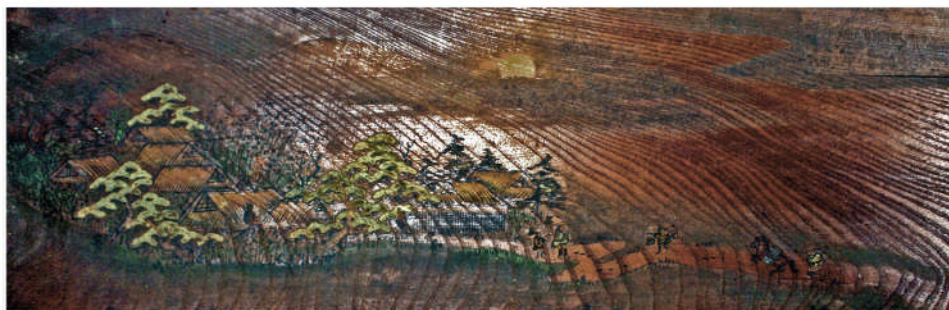
「孤村夕照」



(細部)



「宮裏白櫻」



「孤村夕照」



裏面の状況



裏面墨書

布忍神社 布忍八景扁額



「野塘春日」 平田秋月」

(細部)



「野塘春日」



「平田秋月」